

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理・歴史科	科目	日本史B	単位	4	単位
対象コース	カレッジコース (カレッジ)	コース	対象クラス	2年	3	組
使用教科書	詳説日本史B (山川出版社)					
使用副教材	最新 日本史図表 三訂版 (第一学習社) 二高の日本史 (本校教材)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにとまなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容 ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。 ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権 (幕藩領主制) へと変化していったことを学びます。 ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。 ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかで位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 3) センター試験だけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れていくので、重要語句の整理と深い理解が必要です。 (2) 家庭 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う (授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど) 3) 単元毎に宿題を課すので、解答して提出すること。 4) 模擬試験前に過去問 (進研模試・全統模試など) を宿題として配付するので、必ず提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)


評価方法：何を使って評価するのか ①定期考査：年5回の定期考査。 ②宿題：単元毎に問題プリントを宿題として配布するので、正確に解答して提出すること。 ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。 ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出してもらいます。

評価における定期考査の割合
70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。 (2) 思考・判断 アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。 (3) 技能・表現 教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。 (4) 知識・理解 習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか		重視する評価の観点				CHECK		
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり 	①「日本人」の形成について、新人の日本列島への移動などを通じて把握させる。 ②温暖化がもたらした縄文文化の発展について、土器や生業の変化を通じて把握させる。	●	●	●	●	○
		2. 農耕社会の成立	①鉄器や農耕の伝来がもたらした大きな意義を把握させる。 ②中国の史書の基本的な理解力を養う。	●	●	●	●	○
	5	3. 古墳とヤマト政権	①古墳築造の意味やその変遷の理解を通じて、ヤマト政権の成立過程を把握させる。 ②史書や金石文の基本的な理解力を養う。 ③4～5世紀の中国・朝鮮の情勢変化が日本にもたらした大きな意義について把握させる。	●	●	●	●	○
		第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷	①ヤマト政権の豪族間の抗争のなかから、やがて蘇我氏主導の推古朝の政治が飛鳥で始まることを把握させる。 ②飛鳥文化と中国南北朝文化との関連性について理解させる。	●	●	●	●	○
	6	2. 律令国家への道	【第1回考査】 ①大化の改新から天智・天武・持統朝にかけて、律令制が形成されていったことを理解させる。	●	●	●	●	○
		3. 平城京の時代	②律令体制の基本的しくみについて理解させる。 ①平城京遷都の歴史的意義について理解させる。	●	●	●	●	○
		4. 天平文化	②藤原氏の進出と聖武朝の政治について理解させる。 ①律令制度の確立と国史編纂事業が関連していること、『万葉集』編纂の意義を理解させる。	●	●	●	●	○
		5. 平安王朝の形成	②国家仏教の意味とその歴史的背景、仏教美術について理解させる。	●	●	●	●	○
		第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治	①桓武・平城・嵯峨天皇の時期の遷都・蝦夷征討・政治改革について理解させる。 ②弘仁・貞観文化について、密教と漢文学を中心に理解させる。	●	●	●	●	○
	7	2. 国風文化	①藤原北家の台頭とその背景にある外戚関係、摂関政治の誕生について理解させる。 ②10世紀初頭の唐の滅亡が、日本を含む東アジア全体に及ぼした影響について理解させる。	●	●	●	●	○
		3. 地方政治の展開と武士	【第2回考査】 ①かな文字の発達、日本の文学史上に大きな影響を与えたことを理解させる。 ②浄土教普及の背景とその文化的影響について理解させる。 ①10世紀における律令政府の地方支配の困難化と国司の権限強化について理解させる。 ②寄進地系荘園発達の背景について理解させる。	●	●	●	●	○
		第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭	③都から下った辺境軍事貴族が、地方の武士をまとめ武士団を形成することを理解させる。	●	●	●	●	○
2	8	2. 鎌倉幕府の成立	①摂関政治を否定して院政が成立してくることを理解させる。 ②院政の矛盾のなかから、やがて平氏政権が誕生してくることを理解させる。 ①治承・寿永の乱の過程で、律令制的な国家制度とは別に、主従制度を根幹とした東国の幕府制度が誕生してくることを理解させる。 ②鎌倉幕府の初期の職制を理解させる。	●	●	●	●	○
		3. 武士の社会	①執権政治の確立過程と御成敗式目制定の関連性を理解させる。 ②地頭領主制の内容と荘園侵略を理解させる。	●	●	●	●	○
9	9	4. 蒙古襲来と幕府の衰退	①蒙古襲来と得宗専制政治の確立の関連性を理解させる。 ②地頭の窮乏化による幕府の基盤の動揺を理解させる。	●	●	●	●	○
		5. 鎌倉文化	①鎌倉新仏教の教えと民衆への浸透の背景を理解させる。 ②武士の台頭と鎌倉期の文学・建築との関連性を理解させる。	●	●	●	●	○
	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	①鎌倉幕府の滅亡から建武の新政にいたる流れを理解させる。 【第3回考査】	●	●	●	●	○	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

